

# 九州・沖縄地区会議ニュース

No.118 2020.3

Science Council of Japan

## 日本学術会議の活動と社会的課題

日本学術会議 九州・沖縄地区 代表幹事 君塚信夫

九州・沖縄地区の会員、連携会員の皆様には、平素より学術活動の発展に向けご活躍いただいておりますことを、厚くお礼申し上げます。九州・沖縄地区ニュース118号をお届けします。

さて、昨年5月1日に元号が「令和」に改元されました。令和は、奈良時代の初め、当時の大宰府の長官、大伴旅人の邸宅で開かれた「梅花の宴」で詠まれた「万葉集」の梅花の歌、三十二首の序文が典拠とされています。大伴旅人の邸宅は、太宰府政庁跡の近くの坂本八幡宮付近とされていますが、桜の季節には、政庁通りから坂本八幡宮に至る道の桜並木はたいへん見事です。令和に入って全国から多くの観光客が坂本八幡宮にお参りするようになり、週末は大変な混雑となっていました。一方、今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために都内で花見の自粛要請などがあり、太宰府への参拝者数も例年に比べて減っているようです。



太宰府天満宮 境内の梅  
令和2年2月 筆者撮影

新型コロナウイルスは、昨年12月はじめに武漢市で患者が発生し、12月末には李文亮医師がSNSにSARSに似た7件の肺炎が確認されたと情報提供し、注意喚起しました。医師の倫理に従った勇氣ある行動でしたが、大変気の毒なことに自らも診療を行っている際に感染し亡くなったと報じられています。本年1月20日になって人から人への感染がおこることが報じられましたが、その間における感染者の国境を越える移動が、今日の世界全域への感染拡大に繋がりました。WHOの発表では感染国・地域が100を超え、国内外の経済への影響も深刻なものになりつつあります。国内ではイベントの自粛や小中高への休校要請がなされ、国内・国際学会や大規模会議等の中止・延期も発表されましたが、これを受けて既に支払い手続きが進んでいた出張予算の返却など、年度の会計に携わる方々に、多くの業務が生まれています。

人類の健康に関連して、2015年の国連サミットで採択されたSDGs(Sustainable Development Goals)は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、その内容は、環境と開発の調和を主たる課題とする「持続可能な開発」と、開発途上国における経済・社会開発を主な課題としてきた「ミレニアム開発目標」が融合されたものです。SDGsで掲げられた17の目標は、すべての人の健康と福祉、質の

高い教育の提供、ジェンダー平等、エネルギー問題、経済成長、技術革新の拡大と持続可能な産業、持続可能な消費と生産、気候変動への対策、海洋資源と陸上生態系の保護と回復、平和と公正、グローバル・パートナーシップの活性化などをはじめとして多岐に渡ります。日本学術会議における多くの活動も、SDGs と深く関わっていますが、今回の新型コロナウイルス禍が、健康、福祉、経済成長、消費・生産のいずれにも大きく影響していることから明らかなように、SDGs の個々の課題は相互に複雑な関係があり、その目標達成のためには、多くの学術領域の協働と国内ならびに国際社会との連携が不可欠です。

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、理学工学にわたる様々な専門分野の会員・連携会員からなる、世代を超えた科学者コミュニティーであり、国内外における学協会、教育分野、産業界や社会の人々とコミュニケーションしあうことによって、現実社会における複雑な問題の解決に資することが期待されています。科学者懇談会ならびに学術講演会は、このきっかけを与えるものであり、本年度は2月11日に、宮崎大学にお世話いただき開催されました。武内副会長に、日本学術会議の活動等についてご報告いただいた後、日本学術会議と地区会議のあり方、日本学術会議への要望、そして地域社会における学術と科学の役割についてたいへん活発な意見交換がなされました。また「世界を視野に宮崎大学から始める新薬開発への挑戦」と題された学術講演会では、地域の多くの研究者や宮崎県下の高校生にも出席いただきました。今回は特に、講演やパネルディスカッションの内容を、高校生が聞いて判りやすいものとなるように手間をかけていただいております、そのため専門の異なる参加者の理解も深まり、大変有意義な会となりました。九州・沖縄地区の学術講演会における新しいモデルをご提案いただいたものと、心より感謝申し上げます。

令和2年度は、8月6～7日に九州大学にて第三部夏季部会・公開シンポジウム、9月に大分大学のお世話で九州・沖縄地区会議ならびに学術講演会を開催予定です。また、来春には九州大学にて地方学術会議“日本学術会議 in 福岡”を九州・沖縄地区会議の学術講演会とあわせて開催する方向で検討を進めております。九州・沖縄地区におけるよりいっそうの学術・科学技術の振興と地域創生を実現するためには、会員・連携会員、研究者の皆様による地区会議活動への益々の積極的なご参加とご協力が是非とも必要です。皆様には、引き続き大きなご関心をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

## 【科学者懇談会の開催】

令和2年2月に宮崎市において科学者懇談会を実施いたしました。

例年、その時々学術を取り巻く環境が変わる中、日本学術会議の会員と各地域で研究活動を行っている連携会員や研究者との間で、意見交換や情報共有を行う貴重な場として科学者懇談会を開催しております。

令和元年度の科学者懇談会では武内副会長にお越しいただき日本学術会議の活動等についてご報告いただいた後、日本学術会議への要望やあり方などについて活発な意見交換が行われました。

令和元年度 科学者懇談会

日 時：令和2年2月11日（火・祝）12:00～13:30

場 所：宮崎観光ホテル 東館2階 紅

出席者：

日本学術会議	副会長	たけうち かずひこ 武内 和彦
	九州・沖縄地区会議 会員／代表幹事	きみづか のぶお 君塚 信夫
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 理事・副学長：女性活躍・人財 育成担当)	だて ゆかり 伊達 紫
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 工学部 特任教授)	ぼ ぼ よしなり 馬場 由成
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 医学部 教授)	なかざと まさみつ 中里 雅光
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 教育学部 教授)	なかやま はやし 中山 迅
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 農学部 教授)	いけだ まさひろ 池田 正浩
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (宮崎大学 農学部 准教授)	やすだ に な 安田 仁奈
	宮崎大学	学長
理事（副学長：研究・企画担当）		すいこう まさひと 水光 正仁
理事（事務局長）		さこだ こういちろう 迫田 浩一郎
副学長（目標・評価担当）		さかい ごう 酒井 剛
副学長（入試担当）		なかばやし けんいち 中林 健一
副学長（産学・地域連携担当）		くにたけ ひさと 國武 久登
副学長（国際連携担当）		むらかみ けいすけ 村上 啓介
副学長（機能強化推進担当）		あかし りょう 明石 良

	監事	なりあい おさむ 成合 修
	教育学部長	ふじい よしのり 藤井 良宜
	工学教育研究部長	よこた みつひろ 横田 光広
	農学部長	さかい まさひろ 酒井 正博
	地域資源創成学部長	いりや たかお 入谷 貴夫
	教育学研究科長	ゆき ひでき 幸 秀樹
	看護学研究科長	かねこ まさとき 金子 政時
	農学工学総合研究科長	にしわき あや 西脇 亜也
	フロンティア科学総合研究センター長	かとう じょうじ 加藤 丈司
	医学部医学科教授	きたむら かずお 北村 和雄
	フロンティア科学総合研究センター准教授	いだ たかのり 井田 隆徳
宮崎県立看護大学	看護研究・研修センター長	ながつる みさこ 長鶴 美佐子
放送大学宮崎学習センター	所長	まつした よういち 松下 洋一
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	名誉研究所長・理事長特命補佐	かんがわ けんじ 寒川 賢治
京都大学	学術研究支援室 シニアリサーチ・アドミニストレーター	ふるや まゆみ 古谷 真優美



宮崎市で開催した科学者懇談会の様子

## 【学術講演会の開催】

令和2年2月に宮崎市において学術講演会を実施いたしました。

### 「世界を視野に宮崎大学から始める新薬開発への挑戦」

日 時：令和2年2月11日（火・祝） 14:00～16:10

場 所：宮崎観光ホテル 東館3階 緋耀

令和2年2月11日（火・祝）に宮崎市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、宮崎大学共催により「世界を視野に宮崎大学から始める新薬開発への挑戦」をテーマにした学術講演会を開催しました。

日本学術会議の武内副会長及び宮崎大学の池ノ上学長のご挨拶の後、宮崎大学の北村教授を講師に迎え、「心血管ホルモン・アドレノメデュリンの発見から新薬開発の挑戦へ」をテーマに講演を行っていただきました。そして講演後には、宮崎大学の中里教授をコーディネーターに、北村教授、宮崎大学の井田准教授、国立循環器病研究センター名誉研究所長の寒川氏、京都大学のシニアリサーチ・アドミニストレーターの前谷氏の4名をパネリストに迎え、「地方大学の新たな挑戦」をテーマにディスカッションを行っていただきました。

当日は、大学関係者の他一般市民も含め150名以上の参加があり、盛会裏に終了しました。

## 【各講演のテーマ】

『心血管ホルモン・アドレノメデュリンの発見から新薬開発の挑戦へ』

宮崎大学医学部 教授 北村 和雄

## 【パネルディスカッション】

『地方大学の新たな挑戦』

コーディネーター：宮崎大学 医学部 教授 中里 雅光

パネリスト：宮崎大学 医学部 教授 北村 和雄

パネリスト：国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

名誉研究所長・理事長特命補佐 寒川 賢治

京都大学 学術研究支援室

シニアリサーチ・アドミニストレーター 古谷 真優美

宮崎大学 フロンティア科学総合研究センター

准教授 井田 隆徳



宮崎市で開催した学術講演会の様子



宮崎市で開催した学術講演会(パネルディスカッション)の様子

講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

10代 男性

世界で初めて宮崎大学でアドレノメデュリンが発見されたというのはすごく興味深かった。  
また、地方大学の強みを感じた。

60代 女性

全く関わりのない研究分野のご講演だったが、資料、お話ともに分かり易く、興味深く拝聴することができた。

40代 男性

学術的な深い話から、高校生に向けた研究者への道など、多様な話が聴けてとても良かったです。

30代 女性

地域の大学でどのような研究がなされているか知る事ができ、興味深い内容でした。

## 【お知らせ】

日本学術会九州・沖縄地区会議では、令和2年度、以下のとおり学術講演会の開催を予定しております。詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

日時： 令和2年度 上半期

場所： 大分大学

## 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

### 会員一覧

君塚 信夫	(第三部所属)	九州大学大学院工学研究院教授)
谷口 倫一郎	(第三部所属)	九州大学大学院システム情報科学研究院教授)
土井 政和	(第一部所属)	九州大学大学院法学研究院教授)
宮崎 康二	(第二部所属)	医療法人聖粒会慈恵病院顧問)
森 正樹	(第二部所属)	九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科教授)

※五十音順

発行 2020年3月

編集 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

日本学術会議 九州・沖縄地区会議事務局

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学研究・産学官連携推進部研究企画課内

電話 092-802-2193 (ダイヤルイン)

FAX 092-802-2391

E-mail kissomu@jimu.kyushu-u.ac.jp